

令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校思斉館小学部

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

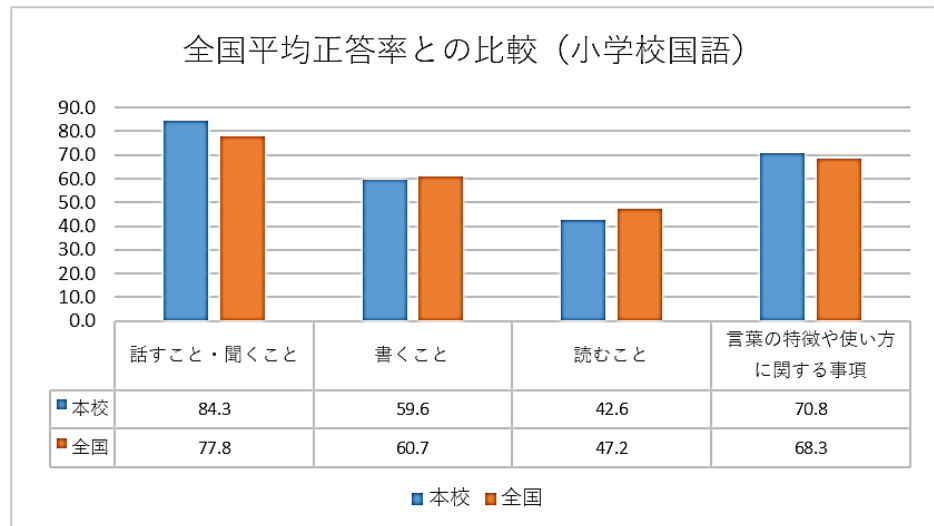
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域のうち2領域（「話すこと・聞くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」）で全国平均正答率を上回っています。「書くこと」と「読むこと」の2領域は、全国平均正答率を下回っており、とくに、「読むこと」では全国平均正答率より5ポイント低い結果となりました。また、無解答率をみると、全国平均よりも低く、課題に粘り強く取り組もうとする児童が多いことが分かります。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が6.5ポイント上回りました。とくに、資料を用いた目的を理解したり、目的や意図に応じ、資料を使って話したりすることに関する問題での正答率が高かったです。これは、国語科の学習の中で、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫していることの成果だと考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 36.8%は、全国平均正答率 39.7%を下回っています。記述式の問題形式に対する無回答率が高いことから、記述式に対して苦手だと感じている児童が多くいることが分かります。児童の苦手感を減らし、記述力を高めることが、国語の力全体を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

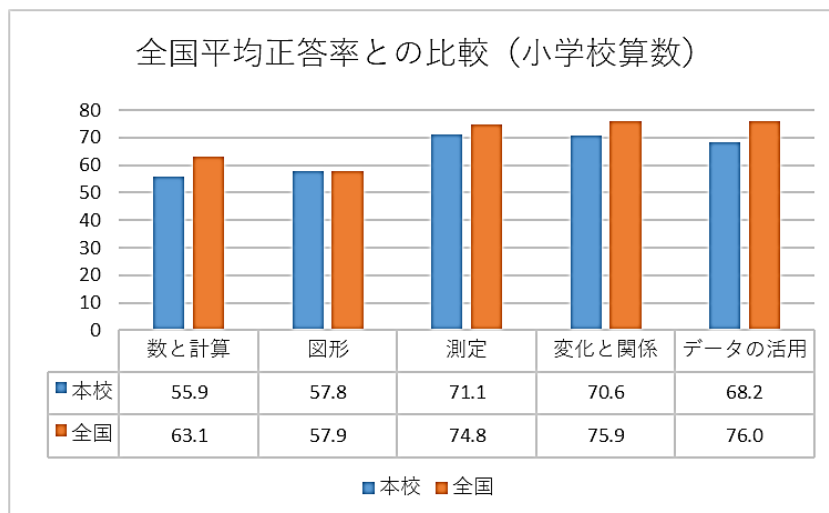
【学校では】

- 子供が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。ぜひ、お子様と一緒に本を読んでください。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。読書は国語の力を伸ばす最良の取組です。

2 算数



(1) 結果

すべての領域で全国平均を下回る結果でした。とくに、「数と計算」と「データの活用」の領域において全国平均と7ポイント以上の開きがあります。また、無解答率を見ると、国語と同様、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっており、粘り強く考え取り組んだことが分かります。

(2) 成果と課題

今回の調査では、全国平均正答率を上回っていたのは、「B 図形」の領域の直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ問題でした。その他に、時刻を求めたり、棒グラフを読み取ったりする問題の正答率が全国平均と並んでいました。解答分類を見ると、考え方は合っているでも計算での間違いがあったり、途中までできていても条件の全てを満たしていなかったりするものが目立ったことが正答率につながらなかった原因の一つだと考えられます。また、全国平均正答率に比べて10ポイント以上下回っていた問題は、記述式の問題と、「D データの活用」領域の二次元表の分類整理をする問題でした。記述式においては、無回答率は大きくないのですが、問われていることに対する的確に答えたり、説明が乏しかったりしており、記述式問題に答える力を高めていくことが課題の一つだと考えられます。問題の形式に慣れていくことや日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やしたり、学習の振り返りなど書くことを意識した取り組みを取り入れたたりして、記述力の向上に努めます。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。
- スキルタイムの時間などを利用して、学習したことの復習や積み上げを行っていきます。

【ご家庭では】

- お子様のドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

※している、当てはまると答えたもの

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	85.7%	85.8%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	31.4%	38.3%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	40.0%	55.0%
自分にはよいところがあると思いますか。	28.6%	36.2%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	27.1%	24.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	81.4%	75.4%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.6%	84.1%

朝食については、全国平均とほぼ変わらない結果ではありましたが、一日の始まりであり大事なエネルギー源となるので90%以上を目指していきたいと思います。起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。「自分にはよいところがある」と肯定的(当てはまる・どちらからかといえば当てはまる)に思っている児童は76.9%でした。日々の生活の中でその子のよさを見つけ、育てていくことや自己肯定感や自己有用感を児童が感じられる取組をすることが必要だと考えます。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	25.7%	31.2%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.7%	11.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.6%	15.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	37.1%	35.6%
「30分以上、1時間より少ない」	38.6%	24.5%
「30分より少ない」	7.1%	9.5%
「全くしない」	2.9%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	22.9%	29.8%

家庭学習については「30分以上、2時間より少ない」児童の割合が75%を占め、家庭学習の時間に着目すると、全国平均よりも少ない傾向があります。中には全く家庭学習をしていない児童もいました。宿題だけに終わらず、進んで家庭学習ができるように、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心の問題も、大切な課題であるとしてとらえています。児童の学びを保障しながら、児童が安心して過ごせるように学校と家庭との連携をさらに強めていくことが求められると考えられます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学习(自学)については、全児童に「家庭学習の進め方」の手引きを配布したり、お手本になる自学ノートを掲示したりして定着しつつあります。児童が進んで学習しようという意欲の向上を図っていきます。
- 年に3回「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」と「家庭学習頑張ろう週間」を設定し、生活習慣の改善や家庭学習の定着を目指します。
- 児童のよさを見つけ、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を今後も進めていきます。

【ご家庭では】

- 低学年のときから、決まった時間に決まった場所で学習する習慣をつけ、学習の様子に励ましや賞賛などの声掛けをお願いします。ゲームをする時間、勉強する時間など、家庭のきまりをお子様と一緒に考えることも習慣化の一つの手立てとなると思います。
- 「早寝・早起き・朝ごはん頑張ろう週間」と「家庭学習頑張ろう週間」などの取組へのご協力をお願いします。